

200937047A

厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業

歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究

平成21年度 総括研究報告書

研究代表者 嶋田昌彦

平成22(2010)年5月

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究

平成21年度 総括研究報告書

研究代表者 嶋田 昌彦

平成22(2010)年 5月

目次

I. 総括研究報告

- 歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究----- 1
嶋田昌彦
（資料）インシデント情報件数集計資料
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料

II. 分担研究報告

1. 個人開業形態の歯科診療所等における安全管理評価法構築に関する研究----- 25
助村大作
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
2. 大学病院におけるインシデントに関する研究----- 45
森崎市治郎
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
3. 開業歯科診療所でのインシデント事例収集に関する研究----- 55
端山智弘
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
4. 障害者等専門歯科診療所でのヒヤリ・ハット事例収集に関する研究----- 67
高橋民男
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
5. 歯科診療所等でのヒヤリ・ハット事例収集様式に関する研究----- 75
北村隆行
（資料）本研究班が作成した月毎のインシデント調査様式および記入例見本
6. 歯科衛生士における安全管理に関する実態調査に関する研究----- 81
相川敬子
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
7. 歯科医療における医薬品に関する安全管理評価法構築に関する研究----- 93
土屋文人
（資料）「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料
8. 歯科医療における安全管理の評価法に関する研究----- 103
馬場一美
9. 歯科大学附属病院における手術用手袋着用の適正化に関する研究----- 107
小谷順一郎
（資料）日本口腔感染症学会雑誌掲載資料

10. 国内外での歯科医療における安全管理評価に関する研究-----	115
深山治久	
(資料)「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料	
11. 歯科大学での安全管理教育に関する研究-----	125
槇宏太郎	
(資料)学会発表等資料	
12. 朝日大学歯学部附属病院におけるインシデント報告書の解析-----	139
式守道夫	
(資料)「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料	
13. 歯科臨床研修でのヒヤリ・ハット事例収集－歯科医療における卒後安全教育－-----	165
俣木志朗	
14. 歯科医療における医療機器に関する安全管理評価法構築-----	167
倉林亨	
15. 歯科医療における安全管理責任者の評価法に関する研究-----	171
三輪全三	
16. 歯科医療における安全管理に関するデータベース構築に関する研究-----	175
安藤文人	
(資料)「我が国における歯科医療安全管理の現状と課題」発表会資料	
17. 歯科医療におけるヒヤリ・ハット等の収集システム効率化・集約化に関する研究--	183
宮本智行	
(資料)インシデント事例件数収集システム概要資料ならびに歯科診療所設置例	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	193

総括研究報告書

歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究

研究代表者 嶋田昌彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
歯学部附属病院病院長

研究要旨

本研究の目的は歯科医療の質・安全向上のために、歯科医療に特化した医療安全の適切な評価方法のあり方を検討し、我が国の実態に即した安全管理評価法の確立を目指すものである。本年度においては、1.全国的規模での4つのモデル組織の構築ならびに継続的なインシデント事例収集、2.歯科医療における安全管理評価法（仮版）の作成、3.歯科医療安全管理に関するサンプル調査を推進した。さらに各分担研究者において歯科医療安全に関する多角的な検討を行いながら、本研究班で新たに作成したインシデント情報件数収集様式を用いて、国内多施設の歯科医療機関において平成21年7月より情報収集を行った。平成22年3月までに収集したインシデントの総数は27,857例であった。安心・安全な歯科医療システムの構築に向けて、次年度更なる大規模調査を計画している。

分担研究者：

・助村大作
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会前委員長
諫早市歯科医師会前会長

・森崎 市治郎
大阪大学歯学部附属病院病院長
障害者歯科治療部教授

・端山 智弘
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会委員長
東京都歯科医師会医事処理常任委員会委員長
衆議院第二議員会館歯科診療室所長

・高橋 民男
藤沢市歯科医師会顧問、高橋歯科医院院長

・北村 隆行
藤沢市歯科医師会副会長、北村歯科医院院長

・相川 敬子
日本歯科衛生士会副会長

・土屋 文人
東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部長

・馬場 一美
昭和大学歯学部歯科補綴学教室教授

・小谷 順一郎
大阪歯科大学附属病院副病院長、歯科麻酔学講座教授

・深山 治久
鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座教授

・榎 宏太郎
昭和大学歯科病院副病院長
歯学部歯科矯正学教室教授

・式守 道夫
朝日大学附属病院副病院長、歯学部顎顔面外科学教授

・俣木 志朗
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科医療
行動科学分野教授、歯学部附属病院副病院長

・倉林 亨
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射
線医学分野教授、歯学部附属病院副病院長
倫理審査委員会委員長

・三輪 全三
東京医科歯科大学歯学部附属病院育成系診療科講師

・安藤 文人
日本歯科大学附属病院矯正歯科講師

・宮本 智行
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科麻酔・生体
管理学分野助教

A. 研究目的

本研究の目的は歯科医療の質・安全向上のために、歯科医療に特化した医療安全の適切な評価方法のあり方を検討し、我が国の実態に即した安全管理評価法の確立を目指すものである。

我が国における歯科医療形態は6万8千を超える無床歯科診療所が主体を成し、全ての歯科医療機関において医療安全管理責任者および医療安全管理指針等の設置や年2回の研修等が義務付けられており、医薬品安全管理責任者および医療機器安全管理責任者については無床歯科診療所においては歯科衛生士も実務を担う職種として明記されている。また平成20年度より歯科外来診療環境体制加算の導入、財団法人日本医療機能評価機構薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業等が開始されたが、未だ、歯科医療における有害事象やヒヤリ・ハット等のインシデント事例や安全管理の実態は全国的規模で明らかでなく、その評価方法も確立していない。さらに今後、急速に高齢化社会となる我が国において、全身的基礎疾患や摂食嚥下機能低下を有する後期高齢者等に対する歯科診療時の安全管理体制の強化は必須と思われるが、全ての歯科医療機関で十分に対策がなされているとは言い難い。

われわれは平成18年度厚生労働科学研究費補助金を受けて歯科に特化したインターネットを介したインシデント収集システムを開発し、国内外で初めて歯科におけるインシデント事例の系統的な収集・分析を行ない、Evidence1に基づいた「歯科における医療安全対策(管理)ガイドライン(案)」を作成した。収集したインシデントの原因はヒューマンエラー、システム上の欠陥、教育上の問題などが上位を占め、有害事象の予防・再発防止には歯科診療の特性を踏まえた診療形態・規模・地域性等に応じた医

療安全管理構築が必要であり、いち早く安全に係る評価法の確立が望まれることを示した(海野雅浩ら：平成18年度厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書)(三輪全三ら：歯科におけるインシデント発生の現状と安全管理の取り組み・医療情報学・27(Suppl.)・203-204・2007)。

本研究の特徴は、大学病院等を主体とした歯科医師臨床研修施設や地域連携を活用し、無床歯科診療所を中心として4つのモデル組織を全国的に構築し、歯科診療の特性を踏まえた安全管理評価法を策定することである。同様の研究は歯科に限らず国内外にみあたらない。

B. 研究方法

本研究は歯科医療の質・安全向上のため安全管理に関する適切な評価のあり方についてインシデント事例収集等の全国的実態調査をもとに検討し、効果的な研修等のフィードバック体制構築を含めて歯科医療における安全管理評価法をEvidenceに基づいて構築する先駆的な研究である。4つのモデル組織を設定し、2年間にわたり継続的にインシデント事例収集等を行いながら、歯科に特化した評価方法を新たに開発しその確立を目指すものである。

I. 全国的規模での4つのモデル組織の構築ならびに継続的なインシデント事例収集

I-1. インシデント情報収集様式の構築

歯科診療所等で発生したインシデントについて、われわれが平成18-19年度厚生労働科学研究補助金の助成を得て開発したインシデント事例収集システム、日本歯科医師会歯科医療安全対策ネットワーク事業等の既存のシステムを活用し、歯科における効率的なインシデント収集のあり方を再検討した。各モデルでの特徴的なインシデント事例については、先行研究にて行った調査

事例ならびにインシデント事例の累計に当てはめ、事例収集に方法に必要な分類項目について検討し、新たな月毎のインシデント事例件数調査様式を作成した。

I-2. インシデント事例調査

I-2-1. 調査対象歯科診療機関

初年度には、歯科の代表的診療形態である①開業形態の個人歯科診療所、②歯科医師養成機関としての大学附属病院、③歯科口腔外科等の総合病院歯科等、④障害児者等専門歯科診療所の4つのモデル組織を構築した。各歯科診療機関より、該当年度においては施設名等を公表しない要望があり、連結不可能な匿名性を担保した上で、本研究に参画していただいた。なお、承諾が得られた各診療機関・地域歯科医師会等へは主任研究者および分担研究者が直接出向いて本研究の趣旨および研究概要の説明を適宜おこなった。

I-2-2. 調査対象期間ならびに集計

平成21年7月より調査を開始した。協力が得られた調査協力機関において、随時、調査を進めた。得られた情報は各地域歯科医師会等の連携を生かし集計し、連結不可能な匿名性を担保したうえで、最終的に研究班に集約された。調査継続している状況を鑑み、歯科診療に特化した25項目インシデント事例分類に関して、事例件数のみの簡便な集計を行った。

II. 歯科医療における安全管理評価法（仮版）の作成

国立大学附属病院においては医療事故防止のための相互チェック等、医療安全管理に関する評価等が既に行われている。われわれは4つのモデル組織での特徴的なインシデント事例等をもとに、我が国の歯科医療に特化した医療安全に関する適切な評価のあり方について検討した。様々な項目について真に防止すべき有害事象が減少し、

安全管理向上に資するための評価基準を詳細かつ多角的に検討した。

III. 歯科医療安全管理に関するサンプル調査

わが国のすべての歯科診療機関において、医療安全管理責任者、医薬品および医療機器安全管理責任者、医療安全管理指針等の設置などが義務付けられているが、その実態は明らかではない。次年度大規模実態調査を踏まえ、歯科医療機関での医療安全管理の実態調査のあり方を検討した。

（倫理面への配慮）

本研究で実施されたインシデント報告調査については東京医科歯科大学歯学部および各研究者の所属する医療機関の倫理委員会において承認を得て行われた。

C. 研究結果

（分担研究報告資料等参照のこと）

I. 全国的規模での4つのモデル組織の構築ならびに継続的なインシデント事例収集

I-1. インシデント情報収集様式の構築

歯科診療所に特化した25項目のインシデント分類を中心とした紙媒体のインシデント調査様式を新たに構築した。有床の歯科診療所や病院等においては5項目を追加した調査様式を作成した。

さらに、次年度大規模調査に向けて、本研究班で新たに考案した歯科に特化したインシデント報告様式をインターネットを介したオンライン報告が可能なソフトウェアを開発した。

I-2. インシデント事例調査

全国的規模での4つのモデル組織を構築し、平成22年3月末までの時点で（今後の予定も含む）、①開業形態の個人歯科診療所においては、研究者の所属する日本歯科医

師会を母体とした7地域の地域歯科医師会、日本歯科衛生士会を母体とした9地域（プレテスト1地域を含む）の地域歯科衛生士会を中心に、国内多施設での研究組織を構成した。また、②歯科医師養成機関としての大学附属病院、③歯科口腔外科等の総合病院歯科等については、研究者が所属する7大学の歯学部附属病院および附属病院等を主体として協力型臨床研修施設等の連携生かし、①から④までのモデルを網羅する形で効率的な情報収集を目指した。さらに④障害児者等専門歯科診療所においては一般社団法人日本障害者歯科学会医療安全管理委員会の協力を得て、国内多施設（約20施設）にて調査を開始した。

平成21年7月から平成22年3月までに得られたインシデント事例件数は総数27,857例であった。

1. 受付・対応・接遇：
11,459件
2. 情報収集・情報伝達の不備：
1,366件
3. 検査・エックス線写真：
1,181件
4. 患者誤認：
656件
5. 診断関連：
359件
6. インフォームドコンセント：
1,967件
7. 患者（家族）等とのトラブル、院内暴力：195件
8. 口腔内への落下、誤飲・誤嚥：2,049件
9. 歯や口腔・顎・顔面等の損傷：
766件
10. 異物等の残存、迷入・陥入：
172件
11. 衣服・所持品の汚染、破損・損傷：
471件

12. 機械・器具の誤操作、破損・紛失：
1,024件
13. 部位の間違い：
270件
14. 神経麻痺等の合併症：
22件
15. 処置・手術に関連したその他の有害事象：427件
16. 薬剤：
254件
17. 感染制御、院内感染：
314件
18. 全身状態悪化・救急搬送：
117件
19. 転倒・転落、打撲：
127件
20. 歯科医療機器・材料、設備等の管理・監督：694件
21. 診療録記載・管理：
529件
22. 歯科技工関連：
1,077件
23. 防災管理、火気取扱：
59件
24. 診療従事者管理：
1,440件
25. その他：
862件

Ⅱ. 歯科医療における安全管理評価法（仮版）の作成

先ず、歯科医療における安全管理評価の項目として、以下の11の大項目をあげた。

1. 医療安全管理に関する総合的な体制整備について
2. 診療録等の管理体制について
3. 院内感染予防対策について
4. 歯科治療前について
5. 歯科治療中について

6. 歯科治療後について
7. 薬剤・歯科材料について
8. 歯科医療機器について
9. 歯科技工物について
10. 様々な歯科診療体制における安全管理体制整備について
11. その他

さらに具体的な安全管理に関する評価項目を検討し、以下の小項目をあげた。

1.医療安全管理に関する総合的な体制整備について

1-1) 医療安全管理のための指針

1-1-1) 医療安全管理の指針を定めている。

1-1-2) 医療安全管理体制に関する役割が定められている。

1-1-3) 医療事故防止のマニュアルがあり、定期的に見直されている。

1-1-4) 全ての職員が医療安全のマニュアルを見ることができる。

1-2) 医療事故等の院内報告制度

1-2-1) ヒヤリ・ハットや医療事故等、インシデント報告の体制がある。

1-2-2) 報告書等の分析・検討を行い、再発防止に役立っている。

1-3) 医療安全管理の体制確保のための委員会(打ち合わせ)

1-3-1) 安全管理のための委員会(打ち合わせ)が1ヶ月に1回程度開催されている。

1-4) 医療安全管理のための教育・研修の実施または受講

1-4-1) 医療安全管理のための教育・研修を開催または受講している。

(受講日 年 月 日、
対象職員 名、参加人数 名)

(受講日 年 月 日、
対象職員 名、参加人数 名)

1-5) 医療事故防止担当職員

1-5-1) 医療安全管理責任者が配置されている。(職種:)

1-5-2) 医薬品安全管理責任者が配置されている。(職種:)

1-5-3) 医療機器安全管理責任者が配置されている。(職種:)

1-6) 事故防止のための設備

1-6-1) デンタルチェア(コンプレッサーの圧、タービンの水質等)の点検・整備を定期的に行っている。

1-6-2) 歯科治療器具の点検・整備を定期的に行っている。

1-6-3) 器材・危険物等は小児の手の届かない所に置いてある。

1-6-4) プレイルームなど診療室内の設備・備品等の安全性に配慮をしている。

1-6-5) 診療室・技工室などの空調設備の点検及び換気は行われている。

1-6-6) AED等、緊急時対応備品が設置され、使用出来る状態にある。

1-7) 医療事故が発生した場合の対応

1-7-1) 緊急又は重大事態が発生した場合の対応(緊急連絡網を含む)等について、周知されている。

2.診療録等の管理体制について

2-1) 診療録の記載

2-1-1) 診療録は治療後、速やかに記載する体制ができている。

2-1-2) 診療録には以下の情報が含まれている。

- A) 患者の主訴
- B) 理学所見や検査所見などの客観的情報
- C) 検査や治療の目的
- D) 検査や治療の内容
- E) 検査結果の所見、評価と診断
- F) 治療方針
- G) インフォームド・コンセント

に関する内容

2-1-3) アレルギー薬、禁忌薬情報を表す方法がルール化されており、患者の禁忌情報を共有できるようになっている。

2-2) 診療録の運用（電子媒体または紙媒体、あるいはその双方）

2-2-1) 1患者1診療録になっている。

2-2-2) 決められたフォーマットがある。

2-2-3) 診療録は適切に管理されている。

2-2-4) 診療録には同意書等の必要書類が全て一緒にファイルされ、診療時に内容を確認できるようになっている。

2-2-5) 記載者のサイン又は押印がある。

2-2-6) 診療録の内容を修正した場合、修正者と修正前後の記載内容がわかるようになっている。

2-2-7) 診療情報提供に関する規定がある。

3. 院内感染予防対策について

3-1) 院内感染対策の指針

3-1-1) 院内感染対策マニュアル類がある。

3-1-2) 針刺し事故などに対応できる。

3-2) 外来診療

3-2-1) 標準予防策の概念に基づいた歯科医療機器、手指消毒、手袋の使用、個人防護用具などの適切な使用が遵守されている。

3-2-2) 診療室に手洗いの設備等が設置されている。

3-2-3) 診療室に歯科用ユニットなど医療機器の表面を消毒できるアルコール製剤が設置されている。

3-2-4) 歯科用局所麻酔器の取り扱いが適切に行われている。

3-2-5) 鋭利器具の廃棄容器が適切・

安全に管理されている。

4. 歯科治療前について

4-1) 接遇

4-1-1) 電話での予約で患者の姓名、主治医等の確認を行っている。

4-1-2) 守秘義務を徹底している。

4-1-3) 患者への説明の際、内容を患者が理解できるような言葉遣いで説明している。

4-2-2) 患者へのインフォームド・コンセントを十分に行っている。

4-2-3) 説明文書、同意書の書式が定められている。

4-2-4) 先進医療、自費診療等を開始するに当たり、患者又は家族が理解できる説明を行って、承諾書により確認を得ている。

4-2-5) インフォームド・コンセントとして患者の意志決定に必要な情報を正確に提供している。

A) 現在の症状

B) その治療行為を採用する理由

C) 治療行為の具体的内容および利点と欠点

D) 治療行為に伴う危険性の程度

E) 治療を行った場合の予後や改善の見込み、程度

F) その治療を受けなかった場合の予後

G) 代替的治療法がある場合には、その内容および利害得失

4-3) 状態の把握と説明

4-3-1) 問診（医療面接）で既往歴、特異体質の有無、薬剤（金属）アレルギーの有無、家族歴等について確認・把握し、記録をしている。

4-3-2) 歯科治療の際、職員間で治療計画や指示内容などが事前に確認されているなど、患者を中心とした配慮がなされて

いる。

4-3-3) 共通の作業手順などが明確になっている。

4-3-4) 患者からの診療内容の相談、苦情処理等に対応できる。

5. 歯科治療中について

5-1) 治療室

5-1-1) 患者と診療録が一致していることを確認している。

5-1-2) 患者が待合室からデンタルチェアに移動する時に、障害となるような物は除いてある。

5-1-3) 治療する部位とその内容を事前に説明し確認している。

5-1-4) インレー、クラウン、抜去歯などの異物の誤飲（誤嚥）防止おこなっている。

5-1-5) 異物の誤飲（誤嚥）が発生した際の処置が迅速にできる。

5-1-6) 火傷・熱傷・切傷が発生した際の処置が迅速にできる。

5-1-7) 器具、薬剤の運搬（治療の動線）は顔の上を避ける配慮を行っている。

5-1-8) 開口器やラバーダム使用時の嘔吐や窒息に対する注意を行っている。

5-1-9) 補綴物の切削片の飛散（特に眼への混入）の対策をしている。

5-1-10) レーザー照射の際に防護眼鏡の使用を義務付けている。

5-1-11) 口腔内に挿入する材料の温度を確認している。

5-1-12) 印象材や薬剤、歯垢染色液、う蝕検知液などの衣類への付着に対する注意を行っている。

5-1-13) 性状が似ている薬品、材料が確実に見分けられるような工夫をしている。

5-1-14) 薬剤の口腔粘膜への漏洩予防策がある。

5-1-15) レストレーナーを使用する際の基準がある。

5-1-17) 悪心、嘔吐、貧血等に対する対応ができる。

5-1-18) ショックなどの全身状態が急変したに対応できる。

5-1-19) モニタ用機器（患者生体監視装置）等が整備されている。

5-1-20) 診察室の環境感染防止に対する配慮が行われている。

5-1-21) 救命救急処置（基本的心肺蘇生法、BLS等）の教育を受けている。

6. 歯科治療後について

6-1) 治療後の処理

6-1-1) 印象、技工物を適切に洗浄・消毒している。

6-1-2) 唾液、血液などの処理についての取り決めがある。

7. 薬剤・歯科材料について

7-1) 医薬品・歯科材料等の管理

7-1-1) 歯科材料、消毒剤、注射薬剤などの薬剤が用途別に保管してある。

7-1-2) 薬剤・歯科材料等の使用期限を把握している。

7-1-3) 劇薬等の処方・管理が適切に行われている。

7-2) 医薬品・歯科材料の使用について

7-2-1) 処方せんの氏名、日付、医薬名、用法・容量などの内容を確認している。

7-2-2) 患者の誤認対策が行われている。

7-2-3) 薬剤の禁忌等についてのチェックしている。

7-2-4) 個々の薬剤の適切に取り扱っている。

8. 歯科医療機器について

8-1) 歯科医療機器の管理

8-1-1) デンタルチェア・エックス線装置・レーザー装置・AED などについて適切に管理されている。

8-1-2) 歯科医療機器の保守点検や安全管理記録がある。

8-2) 歯科医療機器の取り扱い

8-2-1) 歯科医療機器の取扱説明書等の周知徹底をはかっている。

8-2-2) 歯科医療機器を新規導入した際等に必要に応じて研修等を受けている。

9. 歯科技工物について

9-1) 歯科技工物、技工伝票などの管理

9-1-1) 歯科技工物、技工伝票などについて、適切に保管がなされている。

9-1-2) トレーサビリティを有し、不具合があった場合など追跡調査が可能である。

9-2) 作業模型等の取り扱い

9-2-1) 作業模型等の取り扱いが、適切になされている。

10. 様々な歯科診療体制における安全管理体制整備について

10-1) 様々な歯科診療体制における安全管理指針等の整備

10-1-1) 様々な歯科診療体制における安全管理指針等が整備されている。

10-2) 様々な歯科診療体制における安全管理のための資源確保

10-2-1) 様々な歯科診療体制における安全管理のための資源（人・物・予算等）の確保がなされている。

11. その他

III. 歯科医療安全管理に関するサンプル調査

本年度、日本歯科衛生士会が5年に1度実施する「第7回歯科衛生士勤務実態調査」(平

成21年9月実施)において、医薬品安全管理責任者および医療機器安全管理責任者の実態等に関して、歯科医療における安全管理の調査項目に加えていただくことができた。なお、該当調査については、現在調査を終え、集計を行っているところである。

D. 考察

インシデント事例収集と分析によるインシデントの実態把握は医療事故防止策を講じる上で必要不可欠である。しかし、現状では歯科に的を絞ったインシデント事例に関する研究は極端に少ない。その原因として歯科医療を実践する主体が小規模の個人開業形態の診療所であることがあげられる。つまり、術者単独で治療が行われていることが多いため、インシデント事例が明るみに出にくいこと、また、これらの診療所では医療安全に対して体系だった取り組みが行われて来なかったため、インシデント事例報告の重要性についての認識が十分ではなく、煩雑な報告業務に対する理解が得られにくいことが考えられる。

本研究では、個人開業形態の診療所からでも簡便に報告できる、月毎のインシデント事例件数のみの調査報告様式を新たに開発した。また、研究参画歯科医師会を対象として講演会を開催し、社会から求められる安全な歯科医療を実践する上でのインシデント情報収集の重要について歯科医師会会員の理解を得ようとしたばかりでなく、報告により負の査定がないことは徹底周知し、むしろ本研究への参画に伴うインセンティブを提示した。

結果として前回の調査と比較して個人開業形態の歯科診療所から報告された件数は増大しインシデント情報収集方法の改良という面でも大きな成果が得られた。

本研究で得られたインシデント情報等を分析し、歯科診療に特化した我が国の歯科

医療の現状に即した医療安全に関する適切な評価のあり方について検討した。国立大学附属病院における医療事故防止のための相互チェック等を参考に本評価法（仮版）を作成した。次年度、更なる大規模な調査を推進し、安全管理の実態調査と合せて、歯科医療における安全管理評価法の確立を目指す。

E. 結論

インシデント事例収集等の研究協力を依頼した各医療機関から収集できた報告件数は、組織によって差が生じたものの平成22年3月までに27,857件と、概ね目標に達した。収集したこれらの貴重な情報を分析し歯科医療における安全管理評価法（仮版）を作成した。全国的な規模で、調査を拡充し、医療安全に関する実態調査を踏まえ、歯科医療における安全管理評価法の確立を目指す予定である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 下村和子, 野木弥栄, 松本和浩ら: 大阪歯科大学附属病院インфекションコントロールチームにおける歯科衛生士の役割- 歯科衛生士の感染対策の問題およびそれらへの対応に関する調査-, 日本口腔感染症学会雑誌, 2009, 16(2), 11-14.

2. 学会発表

1) 宮本智行, 三輪全三, 馬場一美, 端山智弘, 助村大作, 相川敬子, 高橋民男, 北村隆行, 森崎市治郎, 渋井尚武, 安藤文人, 深山治久, 小谷順一郎, 式守道夫, 槇宏太郎, 土屋文人, 倉林亨, 嶋田昌彦: 我が国

における無床歯科診療所のインシデント事例収集. 医療の質・安全学会第4回学術集会 & 国際シンポジウム. (会議録). 医療の質・安全学会誌. 第4巻増補号. 2009. p. 143.

2) 宮本智行, 三輪全三, 馬場一美, 端山智弘, 助村大作, 相川敬子, 高橋民男, 北村隆行, 森崎市治郎, 渋井尚武, 安藤文人, 深山治久, 小谷順一郎, 式守道夫, 槇宏太郎, 土屋文人, 俣木志朗, 倉林亨, 嶋田昌彦: 歯科診療所におけるインシデント事例調査の試み. 第8回日本予防医学リスクマネジメント学術総会. (会議録). プログラム・抄録集. 2010. p. 113.

3) 岩井理恵, 野木弥栄, 松本和浩ら: 歯科大学病院における手袋適正使用への取組-職員意識調査を実施して-, 第25回日本環境感染学会総会抄録集, 2010, p195.

4) 宮本智行, 三輪全三, 海野雅浩. 東京医科歯科大学歯学部附属病院における医療安全管理対策の概要 -歯科医療に特徴的なインシデント事例を中心に-. 第7回日本予防医学リスクマネジメント学会, 京都, 2009年3月20日.

5) 奥村ひさ, 芝地治子, 馬場由希子, 大上沙央理, 真田達夫, 小林淳子, 三輪全三, 吉川文広. 全身麻酔後に悪心, 嘔吐がみられた一症例の対応について. 第26回日本歯科麻酔学会関東地方会, 東京, 2009年7月4日.

6) 三輪全三, 久保寺友子, 井上吉登, 大多和由美, 高木裕三, 池田正一, 佐藤哲二. 先天性無痛無汗症患者の歯髄感覚と歯髄神経分布. 第26回日本障害者歯科学会, 名古屋, 2009年11月1日.

7) 吉川文広, 馬場有希子, 奥村ひさ, 三輪全三, 石川雅章, 下山和弘, 深山治久, 小長谷 光. 当センターにおける静脈内鎮静法を施行した症例の臨床統計. 第26回日本障害者歯科学会, 名古屋, 2009年11月1

日.

8) 宮本智行, 三輪全三, 鶴沢成一, 岡田大蔵, 和達礼子, 和達重郎, 俣木志朗, 倉林亨, 嶋田昌彦. 東京医科歯科大学歯学部附属病院における医療安全ポケットマニュアル. 第28回日本歯科医学教育学会, 広島, 2009年11月7日.

9) 宮本智行, 三輪全三, 和達礼子, 鶴澤成一, 和達重郎, 岡田大蔵, 深山智子, 三浦佳子, 石井牧子, 小畑佳代子, 多田浩, 倉林亨, 嶋田昌彦. 東京医科歯科大学歯学部附属病院 平成21年度安全対策研修会(前期)におけるアンケート調査について. 第74回口腔病学会東京, 2009年12月4日.

10) 宮本智行, 三輪全三, 嶋田昌彦. 東京医科歯科大学歯学部附属病院での安全管理の概要. 26回日本障害者歯科学会, 名古屋, 2009年10月31日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

■ 平成21年11月8日(日) 10:00~16:00

鶴見大学会館 メインホール他 >>> JR鶴見駅より徒歩約1分

■『歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究』研究班

【主任研究者】

嶋田 昌彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯痛制御学分野 教授
 (歯学部附属病院 病院長)

【分担研究者】

助村 大作 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 前委員長
 森崎 市治郎 大阪大学歯学部附属病院歯学部歯科治療部 教授
 (同病院 副病院長)

端山 智弘 日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 委員長

高橋 民男 横浜市歯科医師会 顧問

北村 隆行 鎌倉市歯科医師会 副会長

相川 敬子 日本歯科衛生士会 副会長

土屋 文人 東京医科歯科大学歯学部附属病院 特別院長

馬場 一真 昭和大学歯学部歯科補綴学教室 教授

小谷 順一郎 大阪歯科大学歯科麻酔学講座 教授
 (附属病院 副病院長)

荒井 尚武 日本歯科大学駒場病院小児歯科 教授
 (同病院 前副病院長)

深山 治久 鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 教授

田 宏太郎 昭和大学歯学部歯科矯正学教室 教授
 (歯科病院 副病院長)

式守 道夫 朝日大学歯学部顎顔面外科学 教授
 (附属病院 副病院長)

俣木 志朗 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線医学分野 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

倉林 亨 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線医学分野 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

三輪 全三 東京医科歯科大学歯学部附属病院育成診療科 講師

安藤 文人 日本歯科大学附属病院矯正歯科 講師
 (同病院 医療安全管理委員会副委員長 安全管理部門長)

宮本 智行 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科麻酔・生体管理学分野 助教
 (歯学部附属病院 リスクマネージャー会議ワーキンググループ 座長)

【研究協力者】

丹羽 均 大阪大学大学院歯学研究科歯科麻酔学教室 教授
 (歯学部附属病院 副病院長)

砂川 光宏 東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリニックルーム 歯科外来科長

鈴木 あづ子 東京都立北斎育医療センター 歯科 歯科医 他

入場
無料

挨拶・基調講演 10:00~10:10

我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

嶋田 昌彦

パネルディスカッション1 10:10~12:00

歯科医療安全管理の現状・問題点

(座長) 嶋田 昌彦・宮本 智行

歯科医療における医薬品・医療機器の安全管理
 歯科における院内感染予防対策の実践とその問題点
 日本歯科衛生士会における歯科医療安全管理の取り組み
 日本障害者歯科学会における医療安全委員会の取り組み
 歯科医療安全管理の海外の動向

土屋 文人

砂川 光宏

相川 敬子

鈴木 あづ子

深山 治久

パネルディスカッション2 13:40~15:20

歯科医療におけるインシデント収集と安全管理

(座長) 倉林 亨・俣木 志朗

大学病院におけるインシデント
 歯科口腔外科等診療施設におけるインシデント
 障害者等専門歯科診療所でのインシデント
 歯科医療におけるインシデントのデータベース化
 歯科医療の質・安全向上に向けて

丹羽 均

式守 道夫

高橋 民男

安藤 文人

森崎 市治郎

全体討議 15:30~16:00

我が国における歯科医療の安全管理評価法の確立を目指して

(座長) 三輪 全三・土屋 文人

特別講演 13:00~13:40

(座長) 森崎 市治郎

日本歯科医師会・東京都歯科医師会における歯科医療安全管理の取り組み 端山 智弘・助村 大作

財団法人 日本救急医療財団

平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

研究成果等普及啓発事業

我が国における 歯科医療安全管理の現状と課題

平成 21 年 11 月 8 日 日曜日 10:00~16:00

鶴見大学会館 メインホール 他

歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究

主任研究者 嶋田 昌彦

【ごあいさつ】

我が国の医療を取り巻く環境が、大きな変革の時を迎えております。医療における安心・安全はその根底を成し、歯科医療においても例外ではありません。国民ひとりひとりに安心かつ安全な歯科医療を提供するには、個々の患者さんの状態や病状などを適切に判断し、十分に説明を行い、患者さんから納得を得ることが大変重要となります。しかしながら、実際の歯科診療におきましては、患者さんに対してなんらかの危険性や合併症など潜在的な危険性が常に存在します。

本研究班におきましては国民に良質かつ安全な医療を提供するために、「歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究」を、平成21年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 (H21-医療-一般-005)の助成を得まして、現在、研究を進めているところでございます。多方面から我が国における歯科医療の安全管理に関する第一人者の方々をお招きし、本研究班を構成いたしました。本発表会におきましては「我が国における歯科医療安全管理の現状および今後の課題」につきまして、本研究班からパネルディスカッションを中心に報告し、ご参加の皆様方を交え、歯科医療の安全に関する活発な議論を展開していただきたいと思います。

なお、本発表会開催には財団法人日本救急医療財団から助成を賜りました。本研究班を代表し、御礼を申し上げます。

主任研究者 嶋田 昌彦

【本発表会開催の意義】

我が国における歯科医療形態は6万8千を超える無床歯科診療所が主体を成し、その全てに医療安全管理体制の充実が必要であるが、口腔内出血や落下物による気道閉塞など致命的な重大事故に繋がる事例も少なくない。安心、安全な歯科診療を目指し、さまざまな歯科診療形態の実態に即した医療安全管理体制構築のため、本研究班において歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究を進めている。本発表会では我が国における歯科医療安全管理の現状および今後の課題について、本研究班員による先進的な取り組みを含めて報告、検討する。得られた成果の公表により、歯科医療の安全に寄与し、国民に広く還元することが期待できる。

(本発表会申請用紙より抜粋)

財団法人 日本救急医療財団
平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
研究成果等普及啓発事業

発表会テーマ： 我が国における歯科医療安全管理の現状と課題

日程： 平成 21 年 11 月 8 日 日曜日

場所： 鶴見大学会館 メインホール他

タイムテーブル

- 挨拶、基調講演 10:00～10:10 メインホール
『我が国における歯科医療安全管理の現状と課題』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
- パネルディスカッション1 10:10～12:00 メインホール
『歯科医療安全管理の現状・問題点』
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院リスクマネージャー会議ワーキンググループ 座長 宮本 智行
- 『歯科医療における医薬品・医療機器の安全管理』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長 土屋 文人
- 『歯科における院内感染予防対策の実際とその問題点』
東京医科歯科大学歯学部附属病院 准教授 総合診療科クリーンルーム歯科外来科長 砂川 光宏
- 『日本歯科衛生士会における歯科医療安全管理の取り組み』
日本歯科衛生士会 副会長 相川 敬子
- 『日本障害者歯科学会における医療安全委員会の取り組み』
東京都立北療育医療センター歯科 歯科医長 鈴木あつ子
- 『歯科医療安全管理の海外の動向』
鶴見大学歯科麻酔学講座 教授 深山 治久
- 昼休憩 12:00～13:00

- 特別講演 13:00~13:40 メインホール
『日本歯科医師会・東京都歯科医師会における歯科医療安全管理の取り組み』
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 委員長 端山 智弘
日本歯科医師会歯科医療安全対策委員会 前委員長 助村 大作
(座長) 大阪大学歯学部附属病院 副病院長 森崎市治郎
- パネルディスカッション2 13:40~15:20 メインホール
『歯科医療におけるインシデント収集と安全管理』
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 副病院長 倉林 亨
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 副病院長 俣木 志朗
- 『大学病院におけるインシデント』
大阪大学歯学部附属病院 副病院長 丹羽 均
- 『歯科口腔外科等診療施設におけるインシデント』
朝日大学歯学部附属病院 副病院長 式守 道夫
- 『障害者等専門歯科診療所でのインシデント』
藤沢市歯科医師会 顧問 高橋 民男
- 『歯科医療におけるインシデントのデータベース化』
日本歯科大学附属病院矯正歯科 講師 安藤 文人
- 『歯科医療の質・安全向上に向けて』
大阪大学歯学部附属病院 副病院長 森崎市治郎
- 全体討議 15:30~16:00 メインホール
『我が国における歯科医療の安全管理評価法の確立を目指して』
『歯科医療における安全管理評価法の確立に関する研究』 研究班一同
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院育成系診療科 講師 三輪 全三
(座長) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長 土屋 文人
- 閉会挨拶 16:00 メインホール
東京医科歯科大学歯学部附属病院 病院長 嶋田 昌彦
- *ポスター・資料展示 10:00~16:00 センタープラザ